河越千句

LA911.2
カ

LA 911.2 – 7

埼玉県立図書館蔵書印

朝何第一
梅花
文学物語
庭白妙雪
寫乃
野道乃
都
重
雲
草乃

心敬
道真
宗祇
中雅
予孝
長敏
永祥
義茂
俊成
満助

埼玉県立図書館蔵書印

4794

[illegible]

長剣　興後　道主　心敬　中雅　宗祇　長敏　永祥　下孝　満助　義茂

[illegible]

俊成　心敬　道主　宗祇　長敏　永祥　中雅　満助　長剣　心敬　下孝

旅人と在りとも知らで旅の宿
たづねて物を問へば宗祇
吉野山三月雪の松の風
行くさき春の花小永
春日なる三笠山月
しらず有明の月
新玉の年の初の宮詣
社頭の草庵
年暮れて春の来ぬるを
月と雪と花と小立ちし

宗祇
心敬
肖柏
道灯
心敬
湯殿
宗祇
肖柏
宗敬
宗牧
湯殿

しるべくもなき雲の
一群雲はたなびく月の面
はるかに深き雲深き袖
かたらひて山里の
たづねつる都
帰るべき道
しるべかなたの
河舟や夏の別
その心や岩の
高雨の
夕月夜
秋の

中務
道灯
宗祇
宗牧
心敬
宗祥
義政
宗祇
湯殿
心敬
肖柏

おくみなる花さへにおもしき一葉萩原　行真
庭にあらしふくまへにまたゝみち　心敬
かつらの跡さしつ袖の露まく　中雅
さ猶もくるこの人君一ゝ事　長敏
たのみとすれと老しの命の　心敬
こゝろ猶わかくして帰るふる里　道真
道をしるへしとも草も枯るゝ　宗祇
ふてたや雪の今ころ雲まよふ　満助
祥まてにあらしたてゆふ風吹竹　専孝
あす有まてこそ命のなかの面影　中雅
今はたゝ小松も猶を老ぬる鏡　行真
庭にうつしゝ袖のなるゝしらん　永祥
ひとつ笠もぬれゆく道のしるへ　長敏
さらに川の流れ行つゝ山も　心敬
物おもひ枕したく涙をも　義藤
まよひ行く垣の夜の風寒しさ　修茂
きゝもしらぬ聞くゝり祥文て　宗祇
なくしも猶ふる夜とうらん　行真
あらはれる行く雲にくらき星　心敬
結ひそひふしてその中ゆふ　専孝
ゆふけの花のしかも残るひて　長敏
心有わつらふ長き世の中　中雅

わすらるゝほど霧の沖津舟　永祥
まてといふも浪やまつらん　満助
汀のこる月乃つらきにさよ更て　心敬
あはれいかにしるもの下風　宗祇
さをしかもなにこひしたふ人もなし　中雅
なき後の世をよしもからく　長剛
春のゆく袂のまゝの身ならなく　修茂
命をし思ひたのまは後もなす　義藤
入かたに雲やわくらむ花の色　興俊
雲たなびける本のみ山の月　長敏
桜花ちりぬるまでも霞ひく　心敬

とはれぬ庭をいつも絶しらぬ　満助
風ふく竹のさゝやく秋の声　宗祇
舟もうこきとて江にたちそめぬ　心敬
春のかすみかへるさ雁の　永祥
一村くもりとぶ雲のゆく　市孝
色かはる行かたしらぬ草まくら旅なく　修茂
ふかき川おとや宿をすむらん　長敏
駒とゞめ人もあかなる山かぜ深　宗祇
袖ぬらしける霜がれの下草　道真
今こそ見しを床とあれまく　貴弘
見えしあくる鐘や枕さびし　心敬

[illegible]

心敬十六　道真十一　宗祇十二　中雅九
宗孝八　長敬九　肖祥七　義茂五
儀式八　太剣二　奥後一　寿弘一
為助十

何人第二

[illegible]

為助　宗祇
中雅　義茂

[illegible]

道真　為助　中雅　長敬　儀式　宗孝　心敬　太剣　中雅
心敬　為助　中雅　長敬　儀式　宗孝　心敬　太剣　中雅

海士の苫屋の秋の夜の月
袖ぬれて結ばぬ夢の面影
小舟やとる山のはの月
ながめもあかぬ松風の音
晴れ渡る月の光の清さ
我ぞ思ふ秋の宿
わすれ草露の
かりそめの人とのみ
俺が秋の世の何事も安
かぬ川の流れに残る
玉の緒

俊成
満助
宗祇
宗孝
信定
水敏
義俊
公敬
永祥
宗孝
俊成

忘れじの行末までは難
かりけり
わすれじの行末までは
わすれじの月の河面
すれるる冬の心里
風さえて雪の
きりの夕ぐれ
しら雲の
しらの
所西なる尾花
紅葉
秋の夜
月も
袖

貴教
公敬
中雅
水敏
信定
宗祇
公敬
義俊
水敏
興俊
道真

わすれぬ人ぞ成さこのもと
京の雪ゆゑ清き清らかく
花よりはまづ月をぞ思ひそめ
学ぶ事ぞ心の明星
ひとしほ
面の中
面の色ぞ
いとしらぬ藤の
花の月
れる風ぞ
梅ぞ
賤の
花ぞ

俊成
仏敬
家綱
信実
海助
中雅
仏敬
平孝
家綱
海助
道志

細雪
都の
寝覚
暁
前波
花の
風
藤
京
細雪
都の
寝覚
暁
前波
花の
風
藤
京

太敬
仏敬
俊成
実敬
家綱
道志
海助
太敬
仏敬
義敬
家綱

このむ新(?)は月をなかるらん　貴弘
雪ならぬゆくまく思ひ来し　中雅
神にそへん宿かつきみ橋　心敬
何世代のわたらる苦はおもふらん　修茂
あふことかうしひいて見れそ　長敏
ゐてこそ枕たてしもわかれて　宗祇
つもりあはせさゝらふ身はて　心敬
むかしに見しとはのうこなたや　道真
草木とはらに仏はなし見るも　長敏
寺は露のまものあはれなく　宗祇
しらぬ床ありとこしれ月新　満助

きりくもる種のまゝに春は宮をこそ　貴弘
うつりにけりなきさつねへものつらん　心敬
霜まよふよはこゑまも人をわかし　宗祇
そへけり一夜も枕をわかれゆけ　修茂
雨ぬ山はきれ木の本の道　原真
咲ちる花の雪ぬれに枝　心敬
はるぬ音そ風をのこす霧のまゝ　印孝
つもるやみちのむらの宿の秋　中雅
秋もや時雨しらせてまねかぬ　修茂
へゆくうらの月やうつらこし　長剣
これ若かれまちてふ山旅行く　心敬

当やわら風を分て雲霧
袖の上
なれし宮ゐの日の影
月は松の梢高く澄渡
面白き夜の海の
わたる星の影乃山
小倉の山の色
玉藻刈る高瀬
なりひさこ
鳴出る浪の音
見えわたる
海人の釣舟

家綱
満助
貴敬
修成
今尚
古刺
伝敬
家綱
中雅
市孝
義夜

事とは思ひの外の
けつ石のまや寂
夜をしる紅葉
なりひさこ
雲をとうし松風の月
雲も源氏の
桂こそ月よりあらぬ
あこ丸
岩かつら
長くも絶
清つ
苔の
磯辺の
海つ
乃野

貴敬
尤敬
自後
心敬
中雅
修成
家綱
尤敬
道芝
古刺

宗祇十二　公敬十六　義政五　道真十一
満助七　中雅八　長敬十一　俊成九
貴成七　市孝六　光剛二　與後一

何船第三

公風の松を葉ちらす宮ぶしに
野色も深く秋の暮なり
雲居なる船の帆かけ遠く

中雅
公敬
仙敬

床ちかく月の影
ぬるゝ袖の露の
ちらぬ秋の
色深や小萩ふ
寄れなの小すき
多日の里遠の原を
澤ちかく
秋をかけ
人かへる
引ぶしの
ちかの文

公真　貴成
満助　義政
宗祇　市孝
永雅　與後
仙敬　宗祇
市孝

ありしさへ神なき月の袖時雨
晴こし思ひもさだめなき世に
誰もみな人の心のかはりゆく
わかるゝ妹に涙こぼしき
なかなかにあふ夜をしらばいかならん
枕をならべしふしもうらめし
起わかれ文待るゝ手枕つらく
とまらぬ秋の風にあふ坂の関
人ゆかぬ道にもみちの紅葉ちり
なかなかに木陰を待る世
まだしらぬ夢もみはてぬ宵の月

心敏　中雅　賢盛　長敏　修茂　中雅　宗祇　満助　長敏　心敏　元説

さらりける萩かつ散るかうら
塩やく海士のとまやの袖ぬらし
小野山の奥の高野の里
あやなくも雪しぐれてふけゆく
人はまだ夕暮の道
かりそめに尾花ふきそふ宿ならん
捨人の心のうちやうらむらん
月おもしろき秋のくれ
浅茅の原の露そうつらん
なくさむる里に秋の夕
まつ心にも雨おつる鐘

修茂　宗祇　元説　満助　中雅　長敏　心敏　宗祇　永祥　賢盛　修茂

女ふみ乞ふいへらの蟬鳴く
はしり杖つく旅やまならん
越えし川六十あまり老の坂
おとしもなりし年くれの暮
長くやむと君は尾上の月
氷さしもまゝ人まつ宿の庭
前垣とつの名もなくうしとも
わきて小夜もる関のつき
又いつの秋は時雨ふる秋もなき
ゆうべ露とさかえ心よし
ちる葉とも朽木と思ふ身を悦く

中雅
仙鼓
道去
義方
其刹
宗哦
其敵
亦孝
蒲明
宗哦
傍哉

浪よふるこそは川かはらにし
末遠く岩ふむ道の駒の跡
雲よりもたかくさかる山
明けゆく風はあとの年重ねて
へだつの続のもとに明けかかる
残なく花は散らん春の暮
えり分けしこそわすれ
田さらはやそぐ清らかに
淡鳴くものと渡る人
立ち出で別るの宿の秋の風
萩原の露の月くまなく

貫鼓
仙鼓
石去
永祥
心鼓
道去
蒲明
義方
貫鼓
仙鼓
中雅

虫の音我枕かりくる秋ハ更て　宗祇

うたゝねはらぬ我ともゆめ見きて　紹武

ちるふちや椎きこえ色もかん　与基

利を見き人の名をたのみけめる　長敏

とま屋かもすみすみやりの峯道　満助

旅行とゝろやすのへの山さとて　正敏

人つく宿てさかめゆかぬ郭公　与真

おくさめかたる友ゆゑの行き　義賢

清きも花にちるや松風　賢敏

うき世物とはいかにまつりなし　長敏

月みえてやみかゝるかはりもなん　正敏

霧かゝり帰る釣舟　宗祇

をとにのミ夕とをくへとしの空　経成

なかめこそ宮こ行こそ里　満助

行面なから柏木の紅葉を霞かな　長敏

おちこちに浅茅か小萩の手枕　永祥

旅人の花はなかれとまたかく　正敏

いつかりしきゆゑにまよふる　中維

大原やよそ外の物おもひ　長敏

まいりかね袖の別路　義賢

語りてみえいかに待し涙とも　中維

たゝさりし花の帰るかた　宗祇

身のほとも佛さひたる衣きく
人のこころ縁まちつる上見ゆる
杉のよの月を添やらん
あふよしもなき姫乃杉はかし
しのふまき高麗人のわかれ路して
行端下風しは袖しわかれかな
難波かた小舟漕行多く寄
わしの葉しの浪のへ入松
もしくの渓千代松り鷺の花く
松の人有宿花 晴 さまれ
園なからいおとのまかひく打過て

其敏
永祥
道之
隆[illegible]
宗祇
仙敬
其敏
蔵[illegible]
永祥
下考
仙敬

人屋らひこそ袖の雨霧
寺まちは末代の月をわく
命そなく憐そいのつらけし
明日か小薪をさらふ市 きをこ
あ由こともか寒さ牛そやまぬる
はつ法や都遠くなきなん
古しら火見ゆる淀舟つき
門風なかへとも宮の日なかて
浪にまかれわりの月いかさ宗利

貴和
隆信
仙敬
永祥
其敏
[illegible]
中雅
宗祇
其[illegible]

中雅九　長敏十一
実敦八　満胤七
下孝文　永祥七
宗刻二

仁敬十四　道真十一
義茂六　宗義十一
興俊二　俊茂八

何山第四

雪ふりつもるかの山ぢを踏分て
面影たえぬ月の光を
見るにつけ昔をしのぶ袖の露
夕ぐれにいとゞ濡もかな

下孝
永祥
俊茂
宗紙

風とともにさそふ水の道
面影ばかりかたをとゞめて
明かたの月にたぐへて
見しかたの人の面影
移ひぬ草のうへ
物のあはれ
ひとりぬる夕の
嵐のうちふく
山のやまかぜ
こゝろ
夢ぬるとあふ

道真
仁敬
義茂
実敦
興俊
満胤
中雅
宗紙
下孝
義茂

ゆふしくれ物おもふしも　中雅
ものうさはたえすや旅の風　俊[illegible]
草葉は露に袖のうへの露　季敏
宮城野や花しみたれ咲ぬらく　以敬
月さそふ風のさむく置霜　宗祇
行つくしなくさめつる心の空に　永祥
雲さそふ峯の松も霜なれし　市孝
色かはる山は袖の物思ふ面　俊[illegible]
うけるふ人もあらすをみな　仙敬
忙はねと惜く花やまちわひん　貴弘
風かはれ宿の梅か香　宗祇

春の夜は枕さへ月に置く　義質
霞かゝれる暁の空　市孝
契りおきし涙に袖の深　仙敬
消しなおそきのむしろ露もなく　永祥
移ろふ野への草は露にをきて　季敏
何とはなしにつまなく人をまつ　中雅
面影のしるしにぬるる草木かな　俊[illegible]
雲にとりしよそに鳩の月　仙敬
秋風しろたへのころもの書　貴弘
一むくなる袖ぬれさくる　滿助
ふるさとの母は誰住かの子まてちらて　宗祇

いりはやすくせともすさん
はなの外にかれ老をまし
鶴多く行やゆくしの庭まし
と浦ひとく寒さ小松と植並く
野中の家は風もたまりなき
舞人くまさきのおふし日ふ
こなれし林と汲みてとり川
白川やさかぬ所謂と言ふかく
こゝろ寄せくの思ひのかりき
打ちて月はつ成家の火をのかし
草川まつる古郷乃庭

宗養
紹巴
中雅
心敬
玄以
長敏
道三
心敬
永祥
宗祇
清弘

月にも庭にぬ池の言はせて
夕風まふいれのわきく
露ふい恋まる袖くみうやさん
とひまとてもせらくわすれ
世にわん猶ぬ此ひりおりふ中
命いさうや萩よ紅葉を
住別て月をうあうみ木たく
さうろとあめなふしとりし
うちしいきうちし月の積て
浦のう庭ぬひの鳥く
鶴舟の帰りゆ汁をお津雁

宗養
長敏
宗祇
義房
玄以
中雅
長敏
心敬
紹巴
下粧
道真

永祥
仙敏
玄敏
宗祇
宗訓
中雅
信美
宗祇
宗訓

仙敏
義尭
道堅
昭叟
宗祇
永祥
玄敏
仙敏
宗祇
道堅
昭叟

中雅
常敬
心敬
永祥
宗敬
義尭
心敬
隆英
宗祇
長敬

心敬
常敬
宗敬
永祥
隆英
中雅
宗祇
長敬

市孝七　永祥八　俊成八　宗祇十二
道真十一　長敏十一　敏十六　義尚六
宗敏九　奥俊二　満助一　中雅七
宗祇二

白河前立

春風の霞さそふ柳かな
この色の深きこころ草
引きそへて江の家もしきてみる

宗敏
奥俊
市孝

義尚
仙敏
宗祇
宗長
満助
中雅
俊成
宗敏
宗祇
宗長
市孝

立ほる家居あたりの秋の柿　長敏
二つ三つ木の葉やちるらん　中雅
唐衣いつか打やむ秋ならん　仙敬
深草の里ぬ露けし草　肖弘
月も枕濃の月は曇りけるを　満助
よしあしけしや行けはたれも　隆蔵
郭公つけるかなしも又や待せ　四敬
花ちらすのみうらみの鶯　下孝
梅さく林に霜とも木は枝せ　宗祇
神の社は物いふな　山　肖弘
桜がりやわけとも安しせ　晩蔵

住世中はうきもしほむ　大君　満助
道の辺にかへり花さらにさけく　長敏
かりそめ計と思ふ宿　義賢
かりそめに帰るさ来けはきさ花の露　仙敬
さらにこそ月うつす峯の松風　宗祇
来ぬ人の代まで遠山の霧かとて　長敏
おもむけつらき武蔵野の原　道貞
夕月に軽く入て行まきも　満助
いさゝか月も夜やすらん　隆蔵
たのみ待にかゝる旅枕の宿　中雅
きくらしかの雲かくれ初雁　仙敬

みちのくにまでもいでたつ
ひとをこがねのこしらへや
宣旨をうけてあづまくだり
賜はりて住居をはじめ
爰にてやつまくやしうん鶴松
ふるさとの月をしうら
梅の香をたづねて
ひとりの月にうつりまさる
物のあはれをなぐさめ
袖をかたしき
袖をかたしき
こがねの花麻の高き
[illegible]

今義
義茂
家綱
長敏
心敬
家綱
宗祇
中雅
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]道[illegible]帝
[illegible]橋
[illegible]入日新
[illegible]市人
[illegible]
[illegible]
[illegible]

貴弘七　奥後二　義政四
仁敬十又　宗祇十二　湯明八
中雅八　俊十　長剣二
永祥一

初何中六

月春もしれかすみ風ふく
枝ふるやまゝまつ梅の香
山ひとゝ宿春ふかしてゝ
宿静かに春色ふかしわき明

長敬
長剣
湯明
俊成

ふるく舘人さてく紅葉こ
ろ川ふかなく鶯
一村の菊花ひらく宮ゐく
水屋ふかし永日
明ふかく枝ふかき月新
貴重ふかく　雪の
木ふかく小文ふかの風ふく
来ふかしてふ面新
面山ふかく中ふかしてん
ふかしふ雪の六ふわふしさ
遠ふかく小庭ふかしの落花

宗祇
仁敬
貴弘
中雅
永祥
義政
仁敬
湯明
長敬

木こ[illegible]義雲[illegible]
柳り[illegible]嶋の[illegible]
待場の[illegible]一輝
[illegible]寺[illegible]林[illegible]
仮寝[illegible]
船[illegible]京[illegible]
[illegible]月[illegible]
老中[illegible]と思ふ秋[illegible]
[illegible]音[illegible]
雲[illegible]高[illegible]
[illegible]嵐[illegible]

宗祇
心敬
貞徳
宗祇
[illegible]
中雅
心敬
[illegible]
宗[illegible]
宗祇
永祥

紫の[illegible]
若[illegible]
[illegible]
命[illegible]
哭[illegible]
[illegible]
霜[illegible]
月[illegible]
木の[illegible]
[illegible]
都[illegible]

大敬
義尭
心敬
宗祇
[illegible]
大敬
心敬
永祥
[illegible]
中雅
心敬

道長　家綱　長敏　中雅　海助　永祥　仙敬　義房　道長　隆房　光敦

中雅　京孝　道真　長敏　家綱　隆房　中雅　季利　仙敬　雅孝　家綱

[illegible]
武士のいくさ軍の門出
家ゝ[illegible]
座中のあるいはくの[illegible]
小柴打つ音法しめる人
打[illegible]
秋[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
打[illegible]

[illegible]敬
[illegible]
[illegible]敬
[illegible]敬
中雅
[illegible]
[illegible]紙
[illegible]敬
[illegible]
[illegible]

今[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
出[illegible]
[illegible]
[illegible]
長月や十日[illegible]の月
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

義[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]敬
[illegible]紙
[illegible]
[illegible]敬
[illegible]敬
[illegible]
[illegible]

永祥
仙敬
宗紙
隆成
貴弘
長剛
中雅
心敬
義豊
湯助
市孝

長敬十　長剛三　湯助七　隆成十

右敬
仙敬
隆成
中雅
湯助
宗紙
[illegible]
奥後

宗祇十二　百首十一　敏十人
義茂人　永祥六　中雅九　貴弘六
興俊一

薄何も七

きえぬ雪の名残哉　隆祐
霞と尾花せわしく山　宗祇
梅ゝ風の花の色　中雅
草ゝ月の露の玉　宗敏

きえぬ雪の名残哉　永祥
こゝ所ゝ秋の山　仙敏
草根しゝ海の京の雪　清胤
花の尾ゝ　信生
撫子の露　宗刺
霜ゝ河の舟ゝて　義茂
浦ゝ月の玉　宗祇
うゝ雲の名残哉　心敬
ゝ風の花　清胤
玉笹ゝ指陽の小野　永祥
ゝ穂ゝ月　道生
ゝ雪の名残哉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

有馬清三郎　山家
宿屋人　清兵衛　清右衛門
木挽　九郎兵衛　清右衛門　武士
長谷川左兵衛　長谷川左兵衛
つるぎ　長谷川　谷の下原
まつ神　寒さ　雨
しらはと　長谷川出
京都出　月　つるぎ
わらべ　わらべ　ひのき
金持ち　金持ち　金持ち
かぶと　長康の　言葉
ふんん

山敬
満助
人敬
宮代
源兵
長敬
市孝
心敬
宮代
長利

有馬雅之の矢を射る
射る　長谷川　長谷川
宮川　長谷川　ふんん
まつ　後の世　長谷川
つるぎ　池の　言葉
小石　下風　峠
ふる　流れ　長谷川
きゝ　下宮　浅黄
京都　神　長谷川
宮代　人の　長谷川
長谷川　今日　長谷川

山敬
義友
満助
長敬
永祥
市孝
源兵
宮代
心敬
永祥
中雅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俊成九　宗祇十二　中雅九　長敏十
永祥九　心敬十六　満助七　道堅十一
長剛二　義政三　興後一　下孝八
実教一

何路第八

[illegible]　満助
[illegible]　実教
[illegible]　義政

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

満助　家紋
隆成　奥後
貴秋　乃美
仁敬　家紋
義愛　秋雅
中雅

[illegible]

市孝　仁敬
道長　家紋
満助　隆成
仁敬　乃美
中雅　家紋
貴秋

[illegible]秋の[illegible]
[illegible]
曉の[illegible]
[illegible]
[illegible]
二[illegible]
引[illegible]小松の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]孝
義友
[illegible]敏
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人や[illegible]
甲[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

文科や窮屈なるこの草枕
我が庵の前なる梅の花
面影と長閑の春の
かすかなる花のにほひ
かげろふ花のにほひ
うつろふ春の
かすかなる我と驚く
行く春の
物思ふ
しらるるしく蓮の風
西に来る仏法の道

永祥
心敬
俊成
海恵
道元
義友
家綱
心敬
俊成
永祥
仏真

月とともにくるふ日の新
ふる門は波と
うくやさてしも人を
風をたづねて
ひしりの
草枕
林花月
宿の
世の
うつろふと雪
龍門と
えやは
持

中雅
心敬
海恵
家綱
貴紀
仏吉
長敦
市孝
中雅
心敬
仏吉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

淳和七	貴誠八	義孝八	平孝五
仁敬十六	永祥八	陽成八	長敏九
道真十一	中雅九	宗綱十一	奥後一
長剣一			

何二字及言葉九

春ふかき花の盛に遇ふ千種
さくらの色を見る紅霞
霧つ神の高嶺に面影
ひとも物ふかき軒のゝ法

義孝
平孝
永祥
淳和

行雲の誰の都にとゞまん
あふさかの川をのゝ
暁の月の沖の船
わよ風やとを松
千種の岩の高嶺
かつらの宮の神
石つたの紅葉の
なけ何なる色や
風ふく山の紅葉
契ましまの後の
ゆふ雲
春の花の我

人敏
宗綱
中雅
貴誠
仁敬
乃忠
平敏
宗綱
貴誠
永祥
中雅

[illegible]

まつ一葉つ柳
久河の月を二年に新わらく
りをこそ日の[illegible]
奥の見渡や雪の[illegible]
[illegible]

道真
[illegible]
[illegible]
[illegible]
家紙
清助
[illegible]
四敬
家紙
[illegible]
[illegible]

[illegible]草の庵
[illegible]
[illegible]我
[illegible]
駒
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
結人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

長敬
[illegible]
[illegible]
義茂
四敬
中雅
清助
[illegible]
家紙
[illegible]
[illegible]

しらぬ国の神といふも
かなしき離別のなみだ草枕
ことしは四国の道の宿
心づくしの手向の山
もみぢ葉の錦
なれやなんと
道真
家綱
仁敬
清助
彩花
四敬
中雅
家綱
為長
仁敬
清助

霜しもをおもふ
中しの物思ふ
俤をこそ
思ひ出
わすれ難し
物の香
まつ風
たのもしい
三年
賤の苅
仁敬
為敬
市春
中雅
仁敬
家綱
彩花
為敬
中雅
仁敬
家綱

[illegible]
[illegible]
[illegible]

都と祈りて岩ほ床
ふるさと月ぞあらぬ岩の屋
いまはや昔の華の古寺
接橋たえ絶えしかたもなく
くさのみ茂れる古野中の清を伺
ふるはたすかぶ
祈ひとり男鹿の角鹿
義経の星くもりて
おこしたるたれ朝夕
学つる道やこれ
ひとり

永祥
乃真
宗紙
清助
仙敬
大敬
義爰
宗紙
宗紙
乃真
市孝

諸ふるさとの清の御手洗
はしくだりとしの川
第ふる毎ふる
ふる屋のもり
ふる道
わたる
ふる
ふる月
ふる
ふる世中

大敬
乃真
心敬
宗紙
義爰
宗紙
清助
清助

義教八　永享五　永祥七　満明九
長敏十一　宗祇十二　中雅七　貴誠九
心敬十五　道真十一　俊成一　興俊一
剃一

何木第十

梅はなほ[illegible]
[illegible]
春は[illegible]

[illegible]
心敬
貴誠

宗祇
義教
俊成
心敬
[illegible]
中雅
興俊
心敬
[illegible]
心敬
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

思出の前なる此の雪
とも思ひしの言葉の末
をくふまれし後のせとをく
うそうしく我が身をひとり
聞きと孤なるやうにむ
身にしみわたるとも
風にたえぬ人の心
落ちにしこの時も
老し角ふかき神のいろん
なくいつしかしらしら
そのかたの差と差ひてて

隆成
宗綱
仏敬
乃美
中雅
宗綱
清胤
仏敬
光剛
隆成
市孝

ゆかの野と差ひて
月代のかの詠
雪の曙月の和歌
きあはせなかれ
高の雪の
板のしの久しく
とのなる苦の
岩の
国山も
言より

光剛
仏敬
光弘
宗綱
義爰
仏敬
光剛
宗綱
光弘
市孝
仏敬

しるしのさまにあらぬ花ぞ
ゝとゝ
ゝ月もすきぬ夜
ゝみ侍ぬ今ゝ
社ゝわしき光ゝ
京の
ゝ月ゝゝ

歌道真
中雅
仏教
陸奥
満助
貴叔
乃志
平敷
仏教
中雅

源をたゝし神のわし
教ゝゝ
我ゝ人のゝ
見ゝ言ゝ
ゝゝ
ゝゝ木ゝ
ゝ業ゝ
職ゝ陸奥
ゝ月ゝ
ゝゝ松ゝ
ゝゝ
ゝ神の
ゝゝ

貴叔
市孝
家綱
乃志
仏教
満助
陸奥
家綱
仏教
市孝
貴叔

[illegible]人と[illegible]六の[illegible]
[illegible]夢[illegible]
[illegible]
[illegible]

道真十一　仁敬十七　貴弘九　宗綱十二
義茂八　俊茂八　右敬九　市孝九
中雅七　奥後一　滿助七　長剛四

道真　大田蒲中入右
貴弘　栗原入右
義茂　近右
長敬　拾木
中雅　禪僧
滿助　德田
俊茂　大胡
長剛　山下

五条後宮
土御門宮

凡物を物ふるはりてうとすれば言
文は初めとして古田左兵衛門武義出の紙に
鉢ゝして十位院心敬権大僧都とゝもに
野宰の人あまたゝび請ひ連歌乃興行
ありて終あしいもとに生乃十二の教ゝ
るひく今の世ゆくもの紙の名ゝ人の
ふるまひおもなりふるゝ所ゝ所ゝ
ゝ作て古歌ゝ所ゝ所ゝ仕く
ゝすゝとゝ二三ゝ年
ゝて源慶乃切とゝ
ゝ

寛文八年戊申三月十六日　陳江軒　周南子

右連歌ゝ句ゝ鄙妙館溝に
曉谷書也茅世ゝ英溝客ゝ筆意
尤可溯洄ゝ元宝東汲其下流
能恐謬乎法
命僅以加筆今澄明之

享和元辛酉年十一月　松野雲谷

受入
36.4.27
静岡県立図書館

六十二